

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会		主 査 名：宮島 徹 就任年月：2009 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：濱田幸雄
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築音響に関する測定方法について調査・検討を行う。</li> <li>・ 音環境規準策定に関連し、重み付け遮音性能評価法に関する検討を行う。</li> <li>・ フランキングに関する内外調査・勉強会を開催し、取組方向を検討する。</li> <li>・ 実騒音による遮音性能測定法の検討を行い、標準的な測定方法の策定・提案を行う。</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：宮島 徹(清水技研) 幹事：賀貴士(鹿島技研), 杉江 聡(小林理研) 委員：赤尾伸一(三井住友技セ), 石渡智秋(永田音響設計), 稲留康一(奥村組技研), 織田慎一(NHK), 坂本慎一(東大生研), 高橋 央(BL), 平光厚雄(建築研究所), 村上剛士(日総試), 矢野博夫(千葉工大), 山内 崇(戸田建設技研), 吉村純一(小林理研), 渡辺充敏(大林組技研)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	57,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 大会 OS のオーガナイザーを担当。7 編の論文を集めて OS を開催した。 2. フランキングに関するアンケート調査結果をまとめを行い、結果を大会にて報告。 3. 実騒音による遮音測定法のこれまでの成果のまとめを行い、結果を大会にて報告。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 委員会発足時の目標に沿って活動を実施しており、特に問題は無い。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><u>1. フランキングに関する検討</u> 既存の研究成果等の勉強会を行い、メンバー間の知識の共有を行った。実務者へのアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめて 2012 年度大会 OS にて報告した。 ○測定方法からみた側路伝搬音予測・対策の現状と課題, 2012 年度大会(東海)</p> <p><u>2. 実騒音法による窓サッシの遮音性能測定方法の検討</u> 実騒音を音源とした遮音測定方法について、中京地区の超高層集合住宅において測定データ収集を実施した。これまでの活動成果について对外発表を行った。 ○実騒音を用いたサッシの遮音性能測定方法の検討 音の入射角と測定結果の関係 2009 年度大会(東北) ○現場における遮音性能の簡易測定法の検討(2-2-7), 2009 年度日本騒音制御工学会春期研究発表会 ○実騒音を用いた外周壁の遮音性能測定方法, 2012 年度大会(東海)</p> <p><u>3. 単一評価指標による遮音性能の表示方法の検討</u> 主要な負荷騒音スペクトルである道路交通騒音データの収集と、ISO717 (Annex B スペクトル特性) の規定の妥当性等の検討を行い、2011 年度大会 OS にて報告した。 ○スペクトル調整項を用いた単一数値評価量による遮音性能規準の設定に関する検討, 2011 年度大会(関東)</p> <p><u>4. 2012 年度大会 OS の企画・運営</u> 2012 年度大会 OS 「建築音響に関する測定方法の最近の動向」の企画・運営を担当し、7 編の発表論文を集めセッションを開催した。</p> <p><u>5. 板のインピーダンス測定方法の検討</u> 前身委員会で実施した諸検討を取りまとめ、測定マニュアルを作成した。活用方法は検討中</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。